

## 10. 関係代名詞

### 1.

次の日本語に合う英語になるように( )内の語を並べかえなさい。

(1) ジェニファーは私がよく知っている少女です。

( whom / is / well / . / I / a / Jennifer / know /  
girl )

(2) 髪の毛が茶色の友だちが、彼女にはいます。

( friend / a / has / is / whose / . / she / hair /  
brown )

(3) これは、まさに私が欲しかった部屋です。

( that / is / wanted / very / I / . / this / room /  
the )

[解答]

- (1) Jennifer is a girl whom I know well.
- (2) She has a friend whose hair is brown.
- (3) This is the very room that I wanted.

## Note

### 10. 関係代名詞

#### 1. 関係代名詞の制限用法

(1) ジェニファーは私がよく知っている少女です。

Jennifer / is / a girl **whom** I know well.

先行詞  
(人)

関係代名詞  
目的格

中学内容では、関係代名詞は全ては出てきませんでした。基本となる関係代名詞は次のようになります。

先行詞	主格	所有格	目的格
人	who	whose	whom (who)
人以外	which	whose / of which	which
人・人以外	that	—	that

まず、関係代名詞の **who** は先行詞が人で主格ですが、その目的格はこの

表のとおり、whom になります。(who)となっているのは、口語では目的格でも who が使われることがあるので、( ) に入れています。

目的格の関係代名詞 whom (先行詞：人) ※省略可能

- ① She is a singer. (彼女は歌手だ。)
- ② I like her. (そして私は彼女を好きだ。)
- ③ She is a singer whom I like. (彼女は、私が好きな歌手だ。)
- 

たとえば、上のような①②の英文を1文にするときに①の singer と②の her が同じ人物なので、her を関係代名詞・目的格の whom に換えて I like の前に置き、先行詞 singer の後につなぎます。これで「私が好きな歌手」と係るようになります。

(1)の問題では「…私がよく知っている少女」となっていますので、ここを関係代名詞・目的格の whom を使って、a girl whom I know well とすることになります。

## Note

(2) 髪の毛が茶色の友だちが、彼女にはいます。

She ~~/has/a~~ friend whose hair is brown.

先行詞  
(人)

関係代名詞  
所有格

目的格に続いて、所有格には **whose** と **of which** があります。

所有格の関係代名詞 **whose** (先行詞：人・人以外)

- ① She has a **brother**. (彼女には兄がいる。)
- ② **His** name is Tom. (そして彼の名前はトムだ。)
- ③ She has a **brother** **whose** name is Tom.  
先行詞 所有格  
(彼女には、名前がトムという兄がいる。)

上の①②の例文では、①の **brother** と②の **His** が同一人物なので、**His** を関係代名詞・所有格の **whose** に換えて **name is Tom** の前に置き、先行詞 **brother** の後につなぎます。そうすると「名前がトムという兄」の意味につながります。

**of which** は次のようになります。

所有格の関係代名詞 **of which** (先行詞：人以外)

- ④ She has a **brother the name** **of which** is Tom.  
先行詞 所有格  
(彼女には、名前がトムという兄がいる。)

**of which** の前に名詞があることに注意が必要です。

関係代名詞 **which** から変化した所有格の形はないので、代わりに **whose** や **of which** を使いますが、これらは古風な形で現代ではあまり使われません。また、ネイティブにも違和感を持つ人が多く、先行詞が物の場合に **whose** を使うのをなるべく避ける傾向にあります。

(2)の問題では「髪の毛が茶色の友だち…」となっていますので、**a friend whose hair is brown** の語順を作りましょう。

## Note

(3) これは、まさに私が欲しかった部屋です。

This is the very room **that** I wanted.

「まさに」

先行詞  
(物)

関係代名詞  
先行詞に **very** がついている  
ので、**that** が好まれる。

関係代名詞 **that** は中学内容で、先行詞が人でも動植物でも物でも使えるが所有格はないということを学びました。さらに、関係代名詞 **that** には次のような特徴があります。

- ① 先行詞に、**all, any, every, no, the first, the last, the only, the same, the very**, 形容詞の最上級 がついているとき、関係代名詞は **that** が好まれる。
- ② 先行詞が関係代名詞節内の **be** 動詞の補語 に当たる場合、関係代名詞は **that** に限られる。
- ③ 先行詞が疑問詞 **who** の場合、**who who...**と続くのを避けるため、関係代名詞は **that** が好まれる。

- ① Mike is the only boy **that** knows me.  
(マイクは私を知っているただ一人の少年だ。)
- ② He is not the naughty boy **that** he was.  
(彼は昔のようないたずら坊主ではない。)
- ③ Who **that** loves you will say such a thing?  
(君を愛している人なら誰がそんなことを言うだろうか。)

**that** には **which** のような選択のイメージはなくて、特定のものを指し示すイメージが強くあります。そのため、先行詞が **the only** や **the+**最上級などで強く限定され、話題の対象を選択する必要がなくなる場合は **that** が好まれるということです。

また、上記①～③以外で、「人」が先行詞の場合は **who** を使うことが多く、実際には **that** は **which** の代わりに使われることとなります。これは、話題にしている人を「あれ」と指し示すのはやや失礼な感じを与えるからです。人が先行詞の場合は **who** が多く好まれます。

## 2.

次の日本語に合う英語になるように( )内の語を並べかえなさい。

(1) これは私たちが住んでいる家です。

( which / is / live / . / the / we / this / in /  
house )

(2) フランス語は、彼女が興味のある言葉です。

( is / interested / language / which / is / a /  
in / French / . / she )

(3) 彼らが住んでいる町には、3つの公園がある。

( that / live / parks / city / . / has / in / the /  
three / they )

[解答]

(1) This is the house which we live in.

(2) French is a language

in which she is interested.

(3) The city that they live in has three parks.

## Note

### 2. 関係代名詞と前置詞

(1) これは私たちが住んでいる家です。

This is the house which we live in.

先行詞(物)

関係代名詞  
目的格

前置詞が必要

目的格の関係代名詞の文では、次のことにも注意が必要です。

先行詞が「動詞＋前置詞」の目的語の場合、前置詞を忘れない。

① He works in the office. (彼はその事務所で働く。)

② This is the office which he works in.

(これは彼が働く事務所です。)

この前置詞を忘れない。



たとえば、上の例文①から関係代名詞を使って「これは彼が働く事務所です。」としたい場合、②の例文のように **office** を先行詞にしてその後に関係代名詞 **which** を置きますが、**he works** の後に「(事務所)の中で」にあたる前置詞の **in** を忘れないようにしなければいけません。

(1)の問題では「…私たちが住んでいる家…」なので、**the house which we live in** とすることになります。

## Note

(2) フランス語は、彼女が興味のある言葉です。

French is

a language in which she is interested.

先行詞(物)

関係代名詞・目的格

関係代名詞が前置詞の目的語の場合、その前置詞が前に置かれることがある。[文語的な表現]  
この in は be interested in の in が前に出されたもの。

また、先行詞が動詞＋前置詞の目的語になっている場合、次のことからも注意が必要です。

先行詞が「動詞＋前置詞」の目的語にあたる場合、前置詞を関係代名詞の前に置くことができる。

- ③ This is the office in which he works.  
(これは彼が働く事務所だ。)

ですから、前述の②の例文では③の例文のように、前置詞 **in** を関係代名詞 **which** の前に置くことができます。

ただし、こうした前置詞を関係代名詞の前に置くのは、とても硬い古風な書きことば向きの表現で、通常の口語では下の④の例文のように、前置詞は後ろに置き、関係代名詞も省略するのがふつうです。

- ④ This is the office he works in. [通常の口語]  
(これは彼が働く事務所だ。)

## Note

(3) 彼らが住んでいる町には、3つの公園がある。

The city **that** they live in has three parks.

先行詞  
(物)

関係代名詞  
目的語

関係代名詞が **that** の場合、  
前置詞は前に置けない。

このような前置詞と関係代名詞の関係で、**that** は次のように注意が必要です。

関係代名詞 **that** の前には前置詞は置けない。

- ⑤ He found the star **that** he was looking for.  
(彼は探していた星を見つけた。)
- ⑥ He found the star for **that** he was looking. (誤)

関係代名詞が **that** の場合、⑤の例文のように前置詞は末尾に置くこととなります。⑥の例文のように **that** の前に前置詞を置くのは誤りです。

### 3.

次の日本語に合う英語になるように( )内の語を並べかえなさい。

- (1) トムは先生で、そして彼は私たちに英語を教えている。

( teacher / us / . / is / English / teaches / , /  
Tom / who / a )

- (2) 彼はその時計はほしくなかった。なぜなら、それは古すぎたからだ。

( the / , / didn't / . / too / which / watch / he /  
old / want / was )

- (3) その少年は、とても疲れていたけれども、歩き続けた。

( very / boy / . / was / , / walking / , / tired /  
the / who / kept )

[解答]

- (1) Tom is a teacher, who teaches us English.
- (2) He didn't want the watch, which was too old.
- (3) The boy, who was very tired, kept walking.

## Note

### 3. 関係代名詞の非制限用法

- (1) トムは先生で、そして彼は私たちに英語を教えている。

Tom is a teacher, who teaches us English.

コンマを置く

「そして彼は」  
関係代名詞の  
非制限用法

teach A B  
「A に B を教える」

関係代名詞には、次のように 2 つの用法があります。

- ① 制限用法(限定用法)…関係代名詞が先行詞を修飾する働き。
- ② 非制限用法(継続用法)…先行詞の後にコンマを置き、先行詞に関わる補足的な説明を加える働き。

今まで学習してきた関係代名詞は、①の制限用法(限定用法)になります。

②の非制限用法(継続用法)は、具体的には次のような訳し方になります。

非制限用法(継続用法)の訳し方

- ①「そして～」 ②「しかし～」 ③「なぜなら～」  
④「～だけれども」 ⑤「もし～ならば」

- ① Tom is a teacher, who teaches English.  
(トムは先生で、そして彼は英語を教えます。)
- ② He gave me a book, which wasn't so interesting.  
(彼は私に1冊の本をくれた。が、それはあまり面白くなかった。)
- ③ I don't want the watch, which is too old.  
(私はその時計はほしくない。なぜなら、それは古過ぎるからだ。)
- ④ The boy, who was very tired, kept walking.  
(その少年は、とても疲れていたけれども、歩き続けた。)
- ⑤ Students, who want to succeed, should study.  
(学生は、もし成功したいならば、勉強すべきだ。)

(1)の問題は「…、そして彼は私たちに英語を教えている」となっていますので、非制限用法を使って、～, who teaches us English としましょう。

Note

(2) 彼はその時計はほしくなかった。なぜなら、それは古すぎたからだ。

He /didn't want /the watch, /which was too old.

コンマを置く

「なぜなら、それは」  
関係代名詞の非制限用法

上の(2)の問題も、「なぜなら、それは古すぎたからだ」となっていますので、関係代名詞の非制限用法を使って、～, which was too old としまし

よう。

## Note

(3) その少年は、とても疲れていたけれども、  
歩き続けた。

The boy, who was very tired, kept walking.

コンマを置く

「彼は～だけれども」  
関係代名詞の非制限用法

keep ～ing  
「～し続ける」

コンマを置く

(3)の問題では「…とても疲れていたけれども…」となっていますので、  
ここでも関係代名詞の非制限用法を使って、～, who was very tired を The  
boy の後に置くことになります。

## 4.

次の日本語に合う英語になるように( )内の語を並べかえなさい。

(1) あなたの言ったことが私はわからない。

( understand / said / what / can't / . / you / I )

(2) ジョンはいわゆる文化人だ。

( of / is / is / culture / . / man / John / called /  
a / what )

(3) 空気と私たちの関係は、水と魚の関係に  
等しい。

( to / is / what / fish / . / to / air / us /  
water / is )

[解答]

- (1) I can't understand what you said.
- (2) John is what is called a man of culture.
- (3) Air is to us what water is to fish.

## Note

### 4. その他の関係代名詞

(1) あなたの言ったことが私はわからない。

I can't understand what you said.

「わからない、理解できない」

「あなたが言ったこと」  
関係代名詞 what 「～こと、～もの」

その他の関係代名詞として、まず **what** があげられますが、次のようになります。

関係代名詞 **what**…それ自体の中に先行詞の意味を含む。  
「もの」「こと」「状態」の意味になる。

- ① I understood what he said. (私は彼が言ったことがわかった。)  
関係代名詞  
「こと」
- ② Whatis good to you is bad to me. (君に良いことが私には悪い。)  
関係代名詞  
「こと」



(1)の問題は「あなたの言ったこと…」なので、この関係代名詞 **what** を使って、**what you said** を作り、動詞 **understand** の後に置きましょう。

## Note

(2) ジョンはいわゆる文化人だ。

John/is what is called/a man of culture.

「いわゆる」

「文化人」

また、関係代名詞 **what** には次のような慣用表現があります。

[**what** を使った慣用表現]

- |                                        |             |
|----------------------------------------|-------------|
| ① <b>what is better</b>                | もっと良いことに    |
| ② <b>what is worse</b>                 | もっと悪いことに    |
| ③ <b>what is more</b>                  | おまけに／その上さらに |
| ④ <b>what S is[are]</b>                | 現在の S       |
| ⑤ <b>what S was[were]</b>              | 過去の S       |
| ⑥ <b>what you[we/they] call</b>        | いわゆる        |
| ⑦ <b>what is called</b>                | いわゆる        |
| ⑧ <b>what with A and (what with) B</b> | A やら B やらで  |

※ ( ) 内の **what with** は省略可。

He was injured, and **what is worse**, it began to snow.

(彼はけがをしていた。そしてもっと悪いことに雪が降り始めた。)

(2)の問題では「…いわゆる…」ですので、慣用表現の **what is called** を使しましょう。

また、**waht** には後に名詞を伴った用法もあります。**which** と合わせてまとめると次のようになります。

〔関係形容詞の用法〕

- ① what + 名詞…「～するだけの、～するすべての」
- ② which + 名詞…非制限用法のみ

- ① He gave the child **what money** he had.  
(彼は持っているだけのお金をその子どもにあげた。)
- ② I said nothing, **which fact** made her angry.  
(私は何も言わなかった。そしてその事実が彼女を怒らせた。)

Note

(3) 空気と私たちの関係は水と魚の関係に等しい。

Air / is / to / us / what / water / is / to / fish .

A is to B what C is to D. 「A と B の関係は、C と D の関係に等しい」

関係代名詞 **what** を含む重要表現には次のようなものがあります。

A is to B **what** C is to D.

(A と B の関係は、C と D の関係と同じだ。)

← (B に対する A は、D に対する C と同じだ。)

Air is (to us) **what** [water is to fish] .  
A            B                    C                    D

(私たちにとって空気は、魚にとっての水と同じだ。)

この英文は **to B** のところをカッコにくくって考えると理解しやすいでしょう。つまり、上の例文で言うと、「空気は、私たちにとって、水が魚に対してそうであるようなものである」と直訳では言っているのです。これをかなり意識して「空気と私たちの関係は水と魚の関係に等しい。」としています。直訳もしっかり理解しておきましょう。

次の日本文に合う英語になるように( )内の語を並べかえなさい。

(4) 私が使っているのと同じようなコンピューターを彼女は使っています。

( uses / same / . / I / as / she / use / the /  
computer )

(5) 彼が提案したような計画は決してうまくいかないだろう。

( as / never / a / . / will / he / such / succeed /  
plan / proposed )

(6) 彼にはよくあることだが、とても早く起きた。

( is / case / , / got / the / him / he / as / early /  
. / up / with / very / often )

[解答]

(4) She uses the same computer as I use.

(5) Such a plan as he proposed  
will never succeed.

(6) As is often the case with him,  
he got up very early.

## Note

(4) 私が使っているのと同じようなコンピューターを彼女は使っています。

She uses the same computer as I use.

use 「～を使う」  
主語が she なので  
3人称単数現在形  
を使う。

the same A as B  
「Bと同じ種類のA」

as はいろいろな働きのある語ですが、関係代名詞としては次の用法があります。

関係代名詞 as

- ① the same ~ as … 「…するのと同じような～」  
※この as は that に置き換え可。
- ② such ~ as … 「…するような～」
- ③ 主節やその一部を先行詞にする as

- ① She owns the same car as I do.  
(彼女は、私が持っているのと同じような車を持っている。)  
=She owns the same car that I do.
- ② Choose such friends as will listen to you quietly.  
(静かに君の言うことを聞いてくれるような友を選びなさい。)  
You should read such books as are good for your study.  
(あなたは、研究のためになるような本を読むべきです。)
- ③ Her feet were bare, as was the custom in those days.  
(彼女は素足だったが、それは当時の習慣だった。)  
As is usual with children, he wanted candies.  
(子どもにはよくあることだが、彼はキャンディーがほしかった。)

(4)の問題では「私が使っているのと同じようなコンピューター…」となっていますので、①の the same ~ as … 「…するのと同じような～」の用法を使って、the same computer as I use の語順を作りましょう。

## Note

(5) 彼が提案したような計画は決してうまく  
いかないだろう。

Such a plan as he proposed

such ~ as ...  
「…するような～」

propose  
「～を提案する」

will never succeed.

will never ~  
「決して～ないだろう」

「うまくいく」

(5)の問題は「彼が提案したような計画は…」となっていますので、これを②の **such ~ as ...** 「…するような～」の用法を使って、**Such a plan as he proposed** としましょう。これを主語にして、その後「…決してうまくいかないだろう」となっていますので、**will never succeed** を続けることとなります。

## Note

(6) 彼にはよくあることだが、とても早く起きた。

As is often the case with him,

「～にはよくあることだが」

he got up very early.

get up 「起きる」

「とても早く」

(6)の問題は、③の「主節やその一部を先行詞にする as」を使うことになります。asはこの英文では、後の **he got up very early** を先行詞にしていて、「それはしばしば彼には **case**(事実、実情)だが」が文字通りの意味です。

これはほとんど慣用表現なので、**As is often the case with** ～で「～にはよくあることだが」と覚えておきましょう。

asの他に関係代名詞のように使われるものに次のものもあります。

関係代名詞 **but** 「～しない…」

- ① 先行詞は **no** などの否定の意味を持つ語。
- ② **but** 自体、否定の意味を持ち、「～しない」(=**that…not**)。
- ③ 文全体では二重否定の文になり、強い肯定を表す。
- ④ 古い言い回しで、現在ではことわざに見られるくらい。

**There is no rule but has some exceptions.** (例外のない規則はない。)  
～しない…

関係代名詞 **than** 「～よりも…、～以上に…」

先行詞は比較級を含む語になる。

They made more cars than were necessary.

～以上に

(彼らは必要以上に多くの車を作った。)



